

だんないの道

第2号

2011年6月1日発行

発行者：NPO 法人 CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423

滋賀県長浜市木之本町

千田681番4

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ	・・・P1
「さざなみ」が開所しました	・・・P2
「さざなみ」管理者あいさつ	・・・P3
活動報告	・・・P3
今後の予定	・・・P4
コラム「ヨリの雑記帳」	・・・P4
車両助成の報告	・・・P6



代表あいさつ

『だんないの道 創刊号』の発行から4ヶ月が経ちました。この間、事務所の開所式や居宅介護事業所「さざなみ」の開業など、さまざまな出来事がありました。皆様には、本法人の会員になっていただいたり、ご寄付をいただいたり、過分なるご支援を受けています。本当にありがとうございます。誕生したばかりのだんないにとっては、皆様からのお力添えが不可欠です。今後とも、ご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、だんないの活動はこの4月より本格始動していますが、毎日のように地域の方や当事者の方が来られます。いつも事務所がにぎやかで、とてもありがたいです。木やお花をいただくこともあり、それらを事務所の周辺に植えました。一方で相談も日に日に増えており、改めて湖北圏域における障害者サービスのニーズの高さを感じています。それとともに、これまで我慢せざるを得なかった環境だったことに悲しさを感じます。また、いわゆる「谷間」と言われる障害者手帳を持たない方々も来所され、状況を聞くと現代社会での生きづらさも実感します。このように、社会の抑圧は障害者だけではなく、あらゆる人々にのしかかっているのです。だんないは、そのような抑圧に向き合いながら活動していく所存です。

このような日々を送る中で、私がいつも感じていることがあります。それは、今の社会は全て「doing」の価値観で評価しているのではないかということです。逆に「being」の価値観を持ち続けることは至難の業だと感じます。つまり、「すること」に価値を置くあまり人間存在自体はそれほど価値が高くはない

ように錯覚してしまうのです。たとえば、仕事でも学校でも「多く」、「速く」、「正確に」がスローガンのようにうたわれています。このペースについていけない人は決して「だんない」と言われることなく「規格外」とされ、社会から弾き出されてしまうのです。

その人々の間で一定の線引きをして「障害者」というレッテルを貼り、彼らに作業所や特別支援学校へ行くことを推奨するのです。「多く」、「速く」、「正確に」。これは、もともと人間に存在する性質によるものかもしれませんが、しかし、それ以上に世の中に根付いている経済至上主義や能力中心主義の存在が最大の要因だと考えます。要するに、社会政策の一環から構築された価値観なのです。国に「障害者」と認定を受けた人は行き場やサービスが比較的ありますが、線引きされてギリギリで「障害者」とされない人にとっては本当に厳しい環境だと思います。線引きを広げてもボーダーライン上の人には常に出できます。どこに線引きを置くかという次元ではいつまで経っても解決されないでしょう。その次元から早く抜け出すためには、「doing」から「being」の価値観への転換が不可欠でしょう。障害者・健常者に関わらず1人の人間として認め、存在自体を大切にする政策に切り替え、誰もが「being」という価値観を持ち続けられる環境にしていきたいものです。

そんな活動を実践することにおいて、この湖北圏域の地域性がキーポイントとなると考えます。ゆったりとしていて、地域のつながりが豊富で、助け合いの精神がある地域では「being」の価値観は東京や大阪よりも受け入れられやすいと考えます。障害者・健常者を問わず、多くできなくても、速くできなくても、正確にできなくても「だんない」と言うことができる社会の実現を目指し、活動していきます。今後とも NPO 法人 CIL だんないの活動にご理解・ご協力いただき、ご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

居宅介護・重度訪問介護事業所「さざなみ」が開所しました

2011年4月1日にバリアフリー工事が完了し、ヘルパー派遣事業として、居宅介護・重度訪問介護事業所「さざなみ」を開所いたしました。職員として高橋正樹さん・山田やよいさん・山田朋美さんの3名の方を迎え、当事者視点のヘルプサービスを目指し、努力していく所存です。これからも、CIL だんないの活動にご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



管理者あいさつ



2011年4月1日にNPO法人だんないが開所して早一ヶ月がたちました。一から立ち上げたということで、自分自身その仲に加わられたという事に誇りまた喜びを感じ、うれしい限りです。私自身最初は、障害者とは何か?医学的?とは何か?社会的?とは何か?完全に無知な状態でありました。しかし、この一ヶ月間、障害者のヘルプサービスについたり、いろんな講演に出席させて頂いたりして、少しは障害者の思考や、だんないが目指している方向性が、見えてきたように思えます。管理者としては、人と人とのコミュニケーション、つながり、また障害者一人一人との信頼関係を築き笑顔で生活できるよう支援していきたいです。私自身まだまだ未熟で無知で頼りない部分がありますが、スタッフ一同みんなで支え合いながら力を合わせて、楽しい事業所、社会を作り上げていきたいと思えます。

「さざなみ」管理者 高橋正樹

活動報告

日付	内容	参加者 ※ () 内は職員
3月13日(日)	湖北障がい者車座会議	美濃部、市川
4月1日(金)	指定居宅介護事業所「さざなみ」開所式	全員
4月14日(木)	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	美濃部、(山田や)
4月14日(木)	お花見	全員、地域の方など
4月15日(金)	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第1回相談ワーカー部会	全員
4月16日(土)	真宗大谷派ビハーラ大会奉仕団	美濃部、頼尊、(高橋)、(山田と)
4月24日(日)	リュースター飲み会(だんない事務所にて)	チームメンバーほか
5月16日(月)	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第2回相談ワーカー会	美濃部、市川、(山田と)、(山田や)
5月25日(水)	滋賀県遊技業協同組合 車両贈呈式	美濃部、頼尊、(高橋)
5月27日(金)	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第17回重症心身障害者プロジェクト会議	美濃部、(山田や)
5月29日(日)	事務所外壁看板設置	

今後の予定

日付	内容	参加者 ※ () 内は職員
6月3日(金)	ヒューマンネットワーク熊本にて研修	頼尊、(高橋)
6月3日(金)	自立生活プログラム 事務所にて(料理体験)	美濃部、市川、(山田や)、(山田と)
6月5日(日)	ピア・カウンセリング入門講座& 2011年度第1回CIL だんない職員研修	美濃部、市川、頼尊、 (高橋)、(山田と)
6月16日(木)	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第3回相談ワーカー部会	全員
6月16日(木) ~20日(月)	第27回DP1日本会議 全国集会 in 沖縄	美濃部、頼尊、(高橋)、(山田と)
6月24日(金)	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第18回重症心身障害者プロジェクト会議	未定
7月16日(土) ~17日(日)	第9回全国車いすアクセス・マニア集会 in 大 阪	頼尊

コラム

ヨリの雑記帳(1)

航空機で羽田空港に着き、新しくできた国際線ターミナルのバリアフリーチェックを済ませ、ポチポチ新宿にある宿にチェックインをしようかとして、山手線に乗り、目黒駅に着いた瞬間、電車が左右に揺れる。なにか感じたことのある揺れ方。16年前の1月17日の早朝と同じ揺れだ。そう、あの東日本大地震の当日、私は東京にいたのだ。

もちろん、その電車は目黒で運転中止となった。乗客は車内からプラットフォームへ、そして、駅の外へ。電車は無人になると、すぐに扉を閉め、パンタグラフを降ろす。プラットフォームに降ろされた客は、掃き出されるように、改札の外へと追い出された。もちろん、余震の影響によるエレベーター内の閉じ込めや混乱を防ぐため、エレベーターは休止状態になった。その時点で、電動車椅子の私は、2階のホームから地上の改札に行く手段を失った。駅員を呼んでもらって、エレベーターを特別に稼働してもらって、何とか地上にたどり着いたが、バス、タクシーが止まった状態。駅は、最後の人を掃き出すと、轟音と共にシャッターを降ろした。

コンビニには食材と水分を求める人ばかりができ、駅前の商店では、商品の廃棄を避けるため無償提

供が始まる。そう、東京大パニックが始まったのである。コンビニは、5 時頃には、お菓子類も含めてすべての商品を売り尽くして、シャッターを閉める。ショッピングモールも混乱を避けるため、閉店に……。

私も、夜に予定されていた会議も中止になり、あるショッピングモールで、暖をとっていた。しかし、例外なく、その暖をとっていた所から追い出された。僕は、行き場を失った。電動車椅子のバッテリーの残量では、とうてい新宿の宿まで行ける状況ではなかった。で、数日前に買ったスマートフォン(iPad)のツイッター機能で、ようやく、恵比寿近くに避難所があると、情報が入る。道々は帰宅難民で溢れかえっていた。避難所までのすべてのホテルは、満室状態になっていた。ようやく避難所のウエスティンホテル東京にたどり着く。もちろん、そこはホテル側が用意して下さった毛布にくるまれた帰宅難民の山だった。25 時頃、ホテル側のご厚意もあって、キャンセルで発生した空き部屋にチェックインさせてもらい、ベッドで就寝することができた。

翌日も東京は混乱していた。駅に隣接するショッピングモールはもちろん、臨時休業が続いていた。東京は、多くの場合、駅から地上へ出るバリアフリールートはショッピングモールのエレベーターと共用の場合が多い。普段は、閉店後も、地上と駅を結ぶエレベーターは動いているのだが、今回は、安全上の理由で、それが動いていない場合が多かった。それだけではなく、駅が単独で動かしているも休止状態。駅員さんと呼んできてもらいエレベーターを特別稼働してもらいながら何とか帰路につくことができた。

あれから 2 か月強。私は再び東京の地に足を踏み入れた。東京は、節電ムード一色だった。駅の券売機は使用中止になっているものもあったり、エスカレーターは、稼働休止状態であったり、節電を呼びかける広告があちこちにあたりする。

もちろん、バリアフリールートのエレベーターは稼働しているものの、エレベーターやエスカレーターに通じる道は、階段へ客を誘導するために照明が切られ、柵と立て看板が置かれている。駅員さんに連れられて照明を落とされた道を進むのだが、何か申し訳なさを自然と発生させるような光景。また、東海道新幹線の東京駅では、車椅子使用者のために作られた待合室の空調設備が節電のため電源を切られていた。

でも、なぜか一般待合室は空調が効いて快適な空間であった。ふと気になって、節電対象物を丁寧に見ていくと、エレベーター、エスカレーターや弱視者に向けられた誘導サインのバックライトなど、バリアフリーに欠かせないものが節電対象物になっているという現実がある。その一方で、節電を訴えかける液晶パネルはなぜかすべてのパネルが点っている。駅のアナウンスは、いつもながら大音響だ。電車はほぼダイヤ通りに走っている。

このような光景を見ていると、「ほしがりません、勝つまでは」というスローガンを想起させる光景。国民が「電力不足」という見えない敵と戦っている。しかし、この「戦い」で、一番我慢を強いられているのは、障害者をはじめとする弱者なのかもしれない。

社会的弱者がこのような非常時に一般の人より多くの我慢を強いられる社会は、真に成熟した社会と言えるのであろうか。ふと、そのことが気になる今日この頃である。

(よりたか つねのぶ)

軽自動車など寄贈

福祉団体に 県遊技業協同組合

県遊技業協同組合は、者施設ＣＩＬだんない二十五日、県内の福祉（長浜市木之本町千田）が送迎用の軽乗用車や加入する企業が寄せた計七十五万円を贈った。

毎年組合が社会貢献事業の一環で寄贈している。今年は大津市におの浜のピアザ淡海で贈呈式を開き、安田孝理事長が二団体に車を、三団体にお金を贈り、各代表に目録を手渡した。

（山田千尋）

訪問介護団体の燃さん夢くらぶ（長浜市湖北町山本）と身体障害安田孝理事長から目録を受け取るＣＩＬだんないの美濃部裕道代表（大津市のピアザ淡海で



一般、滋賀県遊技業協同組合の車両助成事業に申し込み、めでたく軽自動車1台が寄贈されることが決まりました。約20団体が応募され、その中で2団体に寄贈されるという厳しい条件でしたが、助成団体に選ばれて喜びも一入でした。

そして、先月25日に事務局長、管理者、美濃部の3名が大津のピアザ淡海で開かれた贈呈式に出席してきました。3階の大会議室という立派なパーティーが開けそうな部屋で、しかも組合総会のクライマックスに行われました。滋賀県遊技業の幹部や来賓の方、マスコミなど、総勢100名以上がおられる前での贈呈式。緊張しないわけはありません。最高に緊張しました。組合の理事長から目録を渡され、何枚もの写真を撮っていただいて、ようやく無事に終わりました。

今回、法人として初めて所有する車両です。この喜びと贈呈式の思い出は、一生残ることでしょう。「だんない1号車」として、大切に、そして有意義に使用したいと思います。改めて、助成団体として選んでいただいた滋賀県遊技業協同組合様には感謝申し上げます。

NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL&FAX : 0749-50-3639

URL : www.ab.auone-net.jp/~dannai

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人 CIL だんない